

【国語科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 書くことについては、ノート指導をICT機器を活用しながら低学年から丁寧に指導し、継続的に指導者が添削したり評価したりすることで、意欲が高まり、分かりやすく書いたり、自分の考えをまとめたりすることができる児童が増えた。
- 読むことについては、音読や読書、読み聞かせなどを継続的に行うことで、物語や小説などの読み物を読むことに児童の意欲が高まった。また、説明的文章の要点を押さえたり、要旨を100から150字程度にまとめたりする学習に取り組み、事実と自分の考えを区別しながら書く力を高めることができた。
- 昨年度課題のあった話す・聞く能力に関して、話し合う活動において課題が見られた。感想や意見などを区別し、メモを取りながら話を聞いたり、自分の考えをまとめた上で意見交流をしたりして、他教科との関連を図りながら実践の場を多く取り入れるようにしている。より確かな力を身に付けさせるために、継続して指導していく必要がある。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	知識・技能は、どの学年も目標値及び全国、区の平均正答率を上回っている。 特に、物語や説明文を読み、内容を理解する力や漢字を正しく読み書きする力は、4、5、6年ともに優れている。	思考・判断・表現は、どの学年も目標値及び全国、区の平均正答率を上回っている。 調べた結果の表を基に文章を書く力や話し合いを基に文章を書き直す力など目標値を大きく上回ることができている。	主体的に学習に取り組む態度について、どの学年も目標値及び全国、区の平均正答率を上回っている。 日頃から文字の形に気を付けて漢字を正しく読んだり書いたりする習慣が身に付いている。また、進んで言葉の意味を調べたり、読書を楽しんだりすることができている。
課題	どの領域においてもバランスよい学力を身に付けているが、ここ数年、話す・聞く能力に関して、話し合い活動において、学力に個人差が見られる傾向にある。どの児童にも伝え合う力を高めさせるために、国語科と他教科との関連を図り、実践の場を通してより確かな力を身に付けさせる必要がある。		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に、日常生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高め、思考力・想像力を養うことを重点とする。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声言語の教材を活用したり教師が文章を読んだりして、それを聞き取り、メモをする練習をする。実際の場面で主体的に聞く練習をし、聞いたことをまとめたり、それに対する自分の考えを書くという時間を設定したりする。 ・互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞いたり話したりする力や、自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う力を身に付けさせることを意識させる。グループや学級全体で話し合う活動を意図的に設定し、コミュニケーション力の向上を図る。
学年段階別改善策	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の話をしっかり聞くことができるようにする（他学年でも同様）。また、話をするときには「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」を意識させ、自分の身の回りの出来事を伝えられるようにする。 ・話す・聞く活動を日常の学校生活の中に取り入れ、定着を図る。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会にスピーチタイムを設ける。事前にスピーチ原稿を書かせて、話の中心が聞き手に伝わるようにするとともに、聞く側も相手の話の中心を聞き取ることをめあてにして聞く。（聞いた後に質問をしたり感想を言い合ったりする。） ・話し手への質問や感想を述べる機会を設け、「話を聞いてもらった。」「聞いて楽しかった。」と互いに喜び合える活動を取り入れる。 ・教師の話の聞き取ってメモをする練習をする。聞いたことをまとめ、文章にできるようにする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生や先生、友達のスピーチした内容を聞き、まとめたり自己の意見を書いたりする。 ・互いの考えを伝え合うために、自分の立場をはっきりさせ、自分の考えと比較しながら（共通点や相違点、関連して考えたことを整理して）聞いたり、相手の話したことを受けて、自分の考えを話したりすることができるようにする。 ・社会科や理科、総合的な学習の時間、SC科など他教科で、引き続き話し合う活動を取り入れ、実践力を高めていく。